

【児童への話】

12月も半ばとなりました。2学期の学校生活は、今日を入れてあと9日間です。校長先生はこれから約2週間、落五小の皆さんに、学習のまとめをすることに加え、自分の2学期の生活を見つめ直すことを頑張って欲しいと思っています。時間やきまりを守ることができましたか？丁寧な言葉を使うことができましたか？自分のことは自分で正しくすることができましたか？「時間 言葉 用意」について、2学期の自分を振り返ってみてくださいね。

今日は、落五小の教育目標のひとつめ、「すすんで考える子」についてお話しします。

皆さん、自分が「すすんで考える子」になるためには、どうすればよいでしょうか。お勉強の時間を増やす、毎日図鑑や物語などの本をたくさん読む、興味のあることを見付けて頑張ってみる、などが思い浮かぶかもしれませんね。

実は校長先生は、小学生のときに、お家のコーヒーメーカーを壊したことがあります。コーヒーを入れるにはコーヒー豆と水をコーヒーメーカーに入れてスイッチを押すのですが、水の代わりに牛乳を入れたら、おいしい「カフェラテ」ができるに違いないと思って、やってみたんです。すると、機械からゴゴゴッという変な音と白い煙が出てきて、動かなくなってしまいました。

校長先生は、お父さんに、コーヒーメーカーを壊してしまったので、かなり叱られる覚悟で話しました。すると、お父さんは「それはいい考えだった。カフェラテができなかったのは何でだろうね。」と、笑って許してくれました。それから先生は、水と牛乳の成分の違いや、コーヒーメーカーの仕組などを自分で調べて、考えて、少しかしこになりました。今でもそのことをよく覚えています。

かしこいと言えば、とても有名な科学者に、アルベルト・aignシュタインがいます。宇宙の謎を解明する考えをたくさん生み出した、超天才です。その人の言葉を、ふたつ教えます。

ひとつ 「大切なのは、好奇心を失わず、疑問をもち続けることだ」

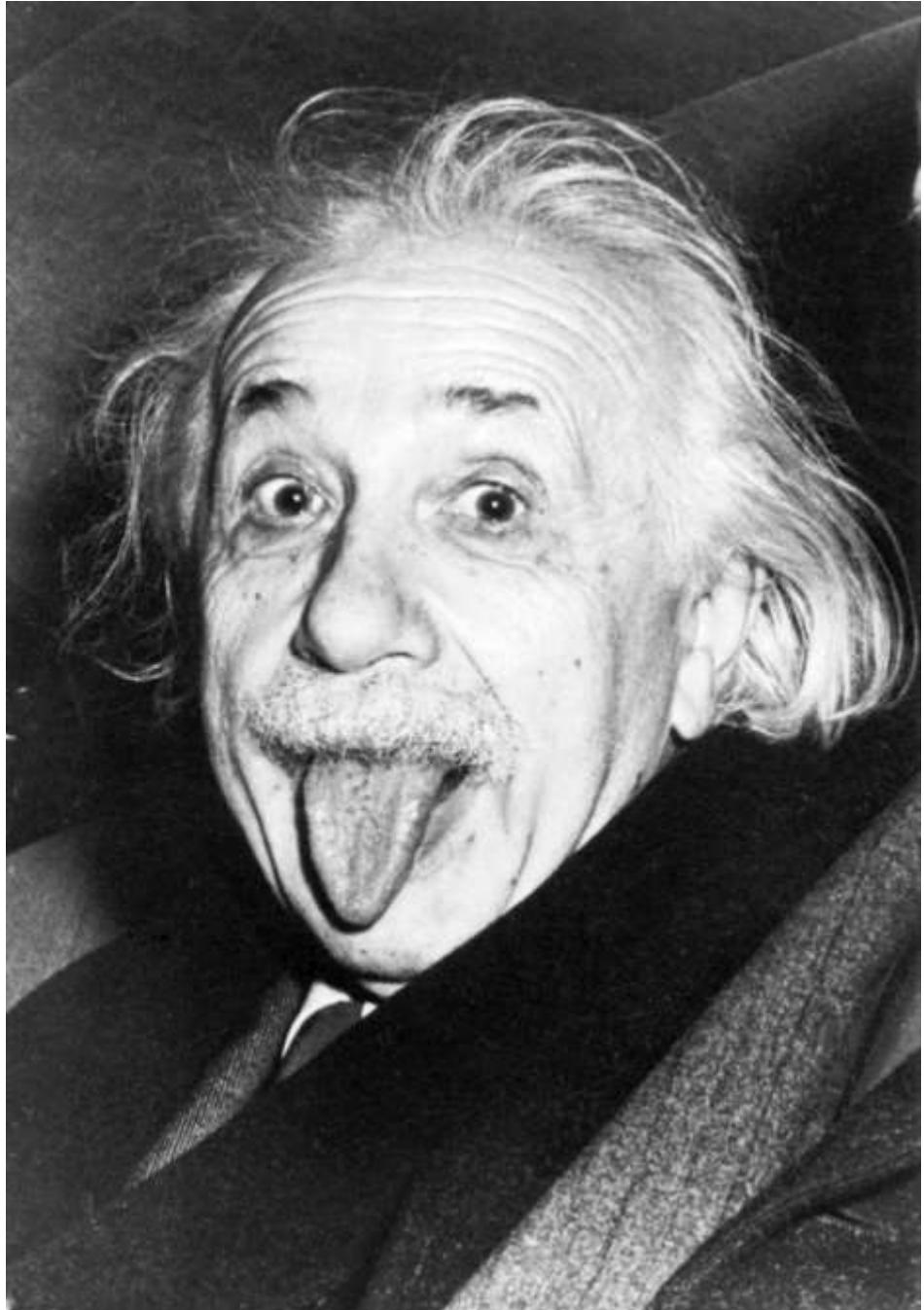
ふたつ 「何かを学ぶためには、自分で体験する以上によい方法はない」

合わせると、『自分が知りたいことや不思議に思うことを、自分でやって確かめてみることが、一番よい学習である』ということです。落五小のかしこい皆さんには、自分が不思議に思うことや苦手なこと、できないことをそのままにせず、まずやってみようと考えてもらいたいと思います。冬はチャレンジの絶好的の機会です。様々な体験することで、新しいことが分かったり、できるようになったりする楽しさを味わっていってください。今日は「すすんで考える子」について、お話ししました。

【児童への話】

あっという間の2学期が過ぎようとしています。落五の子たちは、面倒見のよい高学年を中心に、明るく穏やかな生活を送ってきました。「すすんで考える子ども」「明るく思いやりのある子ども」「強くたくましい子ども」の教育目標の達成に向けて、一日ひとつの成長を感じられる2学期となりました。あと半月で、新年がやってきます。

体験の積み重ねによる思考や心情の成長が経験です。A町からB町まで電車で移動したことが「体験」であるのに対し、移動中に電車内で席を譲ろうかどうかと葛藤したり、一駅乗り過ごして戻るのに大変な思いをしたりする体験の積み重ねから、その人の言動や心が大きく変化するのが『経験』であり、その後の生き方を変えるまでになると言われています。落五小の子どもたちには、心をゆさぶられるようなさまざまな体験を基とした経験をベースとして、よりよい生き方をしようとする、よりよい生き方にできる人になってほしいと願っています。充実した冬になるよう、ご家庭のご協力をお願いします。



アルベルト・aignシュタイン

Albert Einstein (1879~1955)

○大切なのは、好奇心を失わず、疑問をもち続けることだ

○何かを学ぶためには、自分で体験する以上によい方法はない